

総合型地域スポーツクラブの概要

総合型地域スポーツクラブとは

総合型地域スポーツクラブとは、身近な日常生活圏である小学校区・中学校区などの「地域」において、学校体育施設や公共スポーツ施設（地域の実績に応じて民間スポーツ施設も活用）を拠点としながら、地域住民が主体的に運営し、地域住民の誰もが参加できるスポーツクラブの形態です。

具体的には、

1. 多種目・多目標・多世代
2. 拠点施設・クラブハウスの確保
3. 専門指導者の配置
4. スポーツ事業の企画・運営
5. 一貫指導システム
6. 文化複合
7. 受益者負担・自主運営

などが、その特徴です。

そして、色々なスポーツの人との多様なかかわり方（スポーツをする・みる・ささえる・創る）を通して、「スポーツの文化的価値」を体系的かつ存分に享受できるような生涯生活の形成にとって重要な役割を果たすことが期待されています。

「豊かなスポーツライフの形成・定着」が一人でも多くの住民に地域コミュニティの一員（生活者）として、自分たちの地域生活を自分たちの手で豊かにしていくという「地域づくり」へと実を結ぶ可能性があるという点に総合型地域スポーツクラブの現代的な意義があります。「住民主導型スポーツ振興システムによる地域づくり」としての役割が期待されています。

総合型地域スポーツクラブの設立

(1) クラブ

クラブとは、構成する一人ひとりの主体的な関わりによって育まれる「自立した人の集まり」です。原則として、組織を構成する一人ひとりがルール（会則や規約、定款など）に基づき活動し、必要な資金を持ち出し合い相互扶助を基本とした自主的活動によって運営される団体のことを指します。

クラブは、楽しく充実したクラブ会員同士のクラブライフが創出される場です。クラブ会員自身の追い求める理念や夢がそこに存在することにより、魅力あるクラブとして継続性のあるかかわりありが可能となります。また、充実したクラブライフが培われるクラブは、多くの人をクラブに誘い、健康で潤いのある地域社会の創出にも大きく貢献します。

総合型クラブは、すべての地域住民に対して広く門戸を開いています。そして、社会性、公益性の高いクラブとして育成することをねらいとしており、現代社会が抱える様々な社会問題や生活課題の解決にも大きく寄与することが期待されています。そのためにも、まず、クラブ会員自身が楽しく充実したクラブライフやスポーツライフを楽しむ仕組みづくりを行うことが不可欠です。

(2) 設立の形態

総合型クラブは様々な形で設立され、その運営形態も千差万別です。

以下にいくつかの例を示します。クラブ設立のきっかけや経緯も地域によって様々です。

1. 地域住民の有志が総合型クラブの理念に惹かれ、自発的に組織化して設立するケース（中心的役割を果たす人材に負うところが大きい）。
2. 地域の単一種目、単一世代のスポーツクラブが中心となって設立するケース（一つのクラブが拡大発展する場合と、いくつかのクラブが集まり協力して設立する場合がある）。
3. 地域に育ったスポーツクラブ連合が発展的に総合型クラブとして設立するケース（素地は整っているので移行しやすい）。
4. 地域の教室やイベントを開催してきた地区体育協会や体育会などが中心となって設立するケース（地域の実態に即した設立が可能）。
5. スポーツ少年団が主体となって設立するケース（活動のベースがあるため、比較的組織化しやすい）。
6. 学校開放事業やPTA活動などを母体として設立するケース（学校施設を中心とした活動に馴染みやすい）。
7. 地域の公民館活動などを基本として設立するケース（地域づくりやスポーツ振興に対して実績があり、展開しやすい）。

この他、行政などが中心となって地域で活動しているスポーツクラブなどに呼びかけて設立する場合も多く見かけます。行政のスポーツ振興施策に則して設立するので、活動場所の確保や様々な支援を受けるための条件は整いやすいですが、できるだけ早い時期に、地域住民主体による運営体制に切り替えることが肝心です。いつまでも行政を頼りにしていると、なかなか総合型クラブとしての真の自立はできません。

また、総合型クラブの理念に則した素晴らしいスポーツクラブを、大学やサッカーJリーグなどの団体、企業、あるいは地域振興やスポーツ振興などを目的とした各種団体や法人などが社会還元事業として設立し、運営する形態も見られます。

(3) クラブづくりに際し

総合型地域スポーツクラブの運営に際しては、自発的なクラブづくり、誰にでも開かれ

たクラブ、クラブの魅力を高める楽しく充実したスポーツ事業の実施、財政的な自立、クラブマネジメントが重要となります。